

盆踊り漫遊

竹中尚文

第6回 1924年から強制収容へ

1. 戦前のようす

今回は、1924年の排日移民法から第二次世界大戦までの日系人の歴史についてお話をしたいと思います。1924年以降といっても、1900年頃からの2~30年間の影響を受けての時代でありました。この時代の特徴を表す言葉は、「排日」と「写真花嫁」です。もちろん「排日」はこの時代に限らず日系人の歴史につきまとった言葉でありました。ここで強調したいのは1924年です。この年は、アメリカが日本からの移民を禁じた年です。

このことは日系米人の歴史において、一世とは1924年以前に入国した人たちだけです。南米のように移民を受け入れる国においては、新たな入国者は続いているので、一世の人たちはいろんな世代にいます。日系米人の歴史において、一世の人たちは、日本の明治生まれの人たちになります。

また、20世紀初頭の「写真花嫁」によ

って、一世の人たちは結婚をするようになりました。子どもが生まれて家庭を持つようになります。子どもは二世です。従って、二世の人たちは1900年頃から30年程の間に生まれた世代になります。二世の人たちは、日本の大正時代を中心として明治末から初和初めに生まれた人たちと同世代です。

2. 一世の目

少し一世の人の人生を想像してみましよう。明治という新しい時代に生まれた彼らは、決して豊かになったわけではありませんでした。新たな日本を夢見て維新を切り開いた志士たちは、農民である彼らの生活を豊かにすることなど思いもしなかったのでしょうか。新たな時代は戦いの連続で、豊かになったのはごく一部の人たちだけでした。豊かにならなかった農民は、海外に活路の一つを見いだしました。海外で稼いで故郷に錦をかざって帰省することが

夢でした。しかし、アメリカ・ハワイに渡っても好条件で働くことはありませんでした。アメリカに到着して、まず「ブランケかつぎ」と呼ばれる農業労働者になりました。ブランケット(毛布)一枚を持って、農場から農場へと仕事を追っての移動労働者でした。過酷な労働と低賃金で、彼らは黙々と働きました。そして故郷に錦はかざれなくても、結婚をできるぐらいにお金を貯めました。見合写真の交換だけで、結婚をしました。子どもが生まれて、幸せな家庭を築こうと願ったことでしょう。ところが子どもが生まれる頃には、日本人の農地所有を禁ずる法律が成立しました。途方に暮れたでしょう。呆然としたことでしょう。農民出身の彼らは、農地を所有できなくなりました。その後、彼らはどうしたのでしょうか。

3. 農地を失って

それからの一世たちは 1920 年代から 1942 年に収容所に入れられるまでの約 20 年間の日本人はアメリカでどのように暮らしていたのでしょうか。

私はそのあたりの経緯を説明する資料を探しましたが、はっきりとしたものを見つけられずにいました。その中で、「写真花嫁」からの聞き取り調査の資料に興味深い

ものがありました。(「写真花嫁」たちのオーラル・ヒストリー」柳澤幾美『海外移住資料館 研究紀要』第 3 号) この中で、渡米当初の職業とそれ以後の職業を尋ねています。これはインタビューという形式なので、統一条件のもとでの職業割合を示すことはできませんが、その時代を説明する記述です。渡米当初は半数の家庭が農業でしたが、その後の農業家庭は当初の四分の一になっています。農業をできなくなった人々は下宿屋、ホテル、食堂、ドラッグストア、花屋、パン屋に勤めたり経営したりしています。農地を所有することはが困難になった彼らは、都市住民となっていたのです。彼らは都市で出来るだけ集まって住むようになり、日本人街を形成していきました。その代表的な街が、ロサンゼルスのリトルトーキョウです。

この時代は全米で排日運動の嵐が吹き荒れていました。映画『市民ケーン』(“Citizen Kane” 1941 年アメリカ映画)のモデルとなったウィリアム・ハーストの発行する新聞も黄禍論キャンペーンを繰り広げたそうです。(黄禍論おうかろん／こうかろん：ドイツ皇帝ヴィルヘルム2世が、20世紀初頭に日本が台頭することで、白人に対立する黄色人種の危険性を訴え

た) マスメディアが中心となってアメリカ社会から日本人を排斥していきます。社会の中で身の置き所のなくなった日本人は、できるだけ集まって住むようになります。集団で暮らす日本人は目立つので、排斥はいっそう強まります。

4. 結婚

こうした日本人の状況を、映画『愛と哀しみの旅路』(“Come See the Paradise” 1990年アメリカ映画)は、とても巧みに描いています。この映画は、リトルトーキョーで日本映画専門の映画館を経営するカワムラ家が日系人収容所に収容される話を、長女と白人男性の夫婦を中心に描かれています。当時の日本人街の暮らしを実によく調べて、丁寧に描いています。

私は、何人かの二世の人たちからこの映画のモデルとなった夫婦が実在したということを知りました。当時、11~12万人の日系人社会の中で、こうしたカップルの存在を人々が覚えていることが驚きです。それほどに白人男性と日系女性のカップルは珍しかったのです。他に、黒人女性と一世日本人のカップルの存在を最近知りました。(BS-NHK2019年3月29日放送『消えた祖父の謎を追う ~“アメリカの

敵”となった日本移民~』)この家族は東部の街で暮らし、日系社会の中で暮らさなかったため、他の日系人の知るところではありませんでした。しかし、アメリカ政府は日本人である彼の存在を知っていました。ごく普通の調理人であった彼もまた、「敵性外国人」として収容所に送られ、終戦後も家族の元に帰れませんでした。シカゴに送られて終戦後直ぐの1946年に亡くなって、シカゴのお寺がお葬式をしていました。

ここでもう少し日系米人の結婚についてのお話をしましょう。二世は、先に申し上げたように1900年頃から1930年ごろに生まれた人たちなので、開戦前には結婚可能な年齢になっていました。二世のほとんどの人たちは日系人同士で結婚をしたのです。だから映画『愛と哀しみの旅路』のモデルとなったカップルは、日系社会の中で際立った存在で多くの方が覚えているような珍しさでした。当時、日系米人は他民族と結婚することは、ありませんでした。

また、三世になってもやはり日系人同士で結婚をする人が多かったようです。三世の多くは終戦後に生まれました。彼らは1940~50年代の生まれです。私には友

人が多い世代です。彼らは、自分が日系だと強く意識して成長したといいます。学校で、何もいわなくても顔を見れば自分が日系であることは隠せません。また、歴史の授業で第2次世界大戦の真珠湾攻撃を習ったときは顔を上げられなかったそうです。三世もまた強く日系を意識して成長しました。だから、三世も日系人同士で結婚をすることが多かったようです。

しかし、四世になると変わってきました。1990年代に生まれた子どもたちの顔が異人種間の結婚を示していました。1990年代に子どもを産んだ多くは、1960～70年代に生まれた四世です。彼らの多くは、同じ人種というのは結婚に無関係だったようです。これは日系人社会だけの变化ではなく、アメリカ全土での变化です。2000年に雑誌がアメリカの変化として異人種間の結婚が増えたことを伝えています。(『ニューズウィーク日本版』2000年9月27日号)

仲間内での結婚というのは、日系米人に限らずマイノリティー社会に多く見られることです。

5. 日系米人の仏教徒

1930年頃の仏教会については、第2回で申したように盆踊りを始めた頃でし

た。盆踊りは、仏教会から日系キリスト教会に移る人が多かったので、仏教徒をつなぎ止めるための一策でした。先に掲げた柳澤氏の論文で、26人に対するインタビュー中、17人がキリスト教徒で3人が仏教からキリスト教に移っています。従って、26人中20人がキリスト教徒、5人が仏教徒でした。母数が26人ですから、これを持って全体を語ることはできません。しかし、この人数は第2回で紹介したリンダ・アキヤマ氏がいうように人々が仏教からキリスト教に移っていったと指摘する内容と合致します。

仏教からキリスト教へ移るのは、時代背景にその一因があったように思います。日本人及び日系人が、本来生業としてきた農業から追われたのです。不慣れな都市生活者とならねばならなかったのです。社会は排日運動の嵐の中です。その中で、白人が手を差し伸べてくれたらどれだけありがたかったでしょう。白人の援助の手はキリスト教会の中ではありえたのです。同じ信者として助けてもらえるなら、キリスト教に移る人を誰が非難できたでしょうか。

そんな時代で、日本から渡った開教使は帰国することなく、門徒の人たちと共にあり、お寺を守ったのは賞賛すべきことです。

1941年の真珠湾攻撃の後、直ぐにすべての仏教僧侶はFBIに逮捕されています。当時、開教使であった方の息子さんにインタビューをしたことがあります。ある日、FBI捜査官が訪ねてきて、家宅捜索をしてから父親を逮捕連行していったのは、とてもシ

ョックな出来事だったと聞きました。

本当にアメリカの地に仏教を根付かせた開教使たちの存在は忘れてはならないでしょう。

日系移民の歴史年表

アメリカでの出来事	西暦	和暦	日本での出来事
	1868	明治元年	
帰化移民法	1870	明 2	
	1877	明 10	西南戦争
	1885	明 18	移民解禁
	1894-95	明 27-28	日清戦争
ハワイ併合 本願寺による北米開教の開始	1899	明 32	
	1904-05	明 37-38	日露戦争
サンフランシスコ日本人学童差別事件	1906	明 39	
日米紳士協定	1907-8	明 40-41	
写真花嫁			
カリフォルニア州外国人土地法	1913	大 2	
	1914-18	大 3-6	第1次世界大戦
外国人土地法修正法	1920	大 9	
	1923	大 12	関東大震災
排日移民法	1924	大 13	
北米で初めての盆踊り(サンフランシスコ)	1931	昭 6	
真珠湾攻撃	1941	昭 16	
日本人及び日系人強制収容	1942	昭 17	